

特集

私のだざいふ、市政ニュース、トピックス
..... 2~4

新型コロナウイルスワクチン接種について
..... 5

国際交流協会の紹介 6

令和3年度人権作品を募集します！
..... 7

プラム・カルコア太宰府 開館35周年記念「DJ日本史」公開収録
..... 8

市からのお知らせ 9~16

連載 17~24

なんでも情報コーナー 25~33

太宰府の文化財 34

私のだざいふ

太宰府市子ども・子育て会議会長

はら よういちろう
原 陽一郎 さん

筑紫女学園大学 人間科学部人間科学科初等教育・保育専攻 教授



太宰府は、子どもの育ちに大切な「遊びの場」が豊かです。

一つは、身体を使って遊べる環境。WHOは5歳までの子どもたちには1日3時間以上からだを動かして遊ぶことが必要だと提言していますし、小学生の放課後は身体づくりのゴールデンタイム。遊びの場としては、四王寺、竈門神社・宝満山があります。大宰府政庁跡はとても広々としていますから、子どもたちは自然に走り回りたくなるでしょう。

もう一つは、豊かな歴史。弥生時代から、万葉、道真公、天満宮。明治維新にもかかわっていますし、定遠館という日清戦争関連の建物まであります。さらに、これらの歴史からアジアにも目を向けるきっかけとなる九州国立博物館があります。

このような環境を活かすことができれば、子どもたちはきっと素敵に育つでしょう。

私は、太宰府で生まれ育ち、今では太宰府の大学で仕事をしています。子ども子育て会議のメンバーとして、子どもの笑顔あふれる町づくりに貢献したいと思います。

市民サービスの向上 「にしのみどぐち」オープン

6月13日(日)午前9時より、とびうめアリーナ横1階、地域包括支援センターのスペースを活用して西エリア証明書発行センター、通称「にしのみどぐち」がオープンしました。

「日曜日も窓口を開けてほしい。」「市域西側でも住民票や戸籍などを交付してほしい。」などのかねてよりの声を受け、市民サービスの向上と窓口分散を目指したものです。

一方、限られた予算とマンパワーのもとで工事や職員増を伴わずに済むよう、平日のみ開館しているスペースをそのまま活用し、第2・第4日曜午前中の運営としました。

オープン初日から各証明書を求め、多くのお客様がお越しになりました。今後は「にしのみどぐち」の名前にふさわしく、このエリアをかつて大宰府の地が我が国の西の都、世界との窓口であった歴史を彷彿とさせるような更に充実した地にして参ります。

なお、10月20日からはマイナンバーカードをお持ちの方々からコンビニエンスストアでも各種証明書を発行できるサービスもスタートする予定です。



「にしのみどぐち」オープン!



交付窓口の様子

市民サービスの向上 いきいき情報センターに「ほんのポスト」を設置しました!

市民図書館は夜間暗く、駅に近く明るい場所に本の返却ポストを設置してほしいという市民の意見箱の声に応えて、いきいき情報センター入り口内に(地域包括支援センター側)、「ほんのポスト」を新たに設置しました。施設の開館時間内に、借りた本を投函することで返却することができます。

意見していただいた市民の方は、「市民の声にスピーディーにこたえてくれてありがたい。便利にかつ安心安全に利用できてうれしい」と述べ、最初の利用者となりました。今後も市民のみなさまの声に可能な限り迅速に柔軟にこたえていけるように、市をあげて努力していきます。



ポストを利用する様子

大学・高校との連携 楠田市長が次代を担う若者に失敗学を伝授

6月29日に、太宰府高校2年生2クラスの生徒を対象に、本市の取り組みや課題、失敗からいかに立ち直るかについて楠田市長が講義を行いました。プール授業民間委託などの行政のスリム化や甲子園応援クラウドファンディングなどのふるさと納税活用、令和の取り組み、コロナ対策、そして最新の梅プロジェクトに加え、大学受験での2浪や公務員試験での2度の失敗など七転八起の人生哲学について触れました。コロナ禍で悩む若者に失敗学を伝授するのは楠田市長のライフワークでもあります。太宰府高校では、飛梅祭(文化祭)の企画「太宰府、ふしぎ発見」で、本市についての探究活動を行い、地域課題の改善策について考える取り組みを行っています。

7月2日には、福岡女子短期大学の学生を対象に「太宰府地域学」と題し、講義を行いました。この地域に身をおいて学ぶ意義を自覚することを目的とし、太宰府の地理、歴史、社会について調べ、特色を明らかにするフィールドワークの一環です。卒業された後も是非この地に残り、活躍してくれることを願っています。



太宰府高等学校で講義を行う楠田市長



福岡女子短期大学の学生への講義(市役所で開催)

市政ニュース

人材育成・登用 総務省キャリア官僚村田氏、就職氷河期世代枠4人入庁

環境省へ戻られる五味俊太郎総務部理事の辞令交付式を6月30日、総務省から着任される村田誠英総務部経営企画担当理事および新規採用職員(就職氷河期世代採用枠)の辞令交付式を7月1日にそれぞれ行いました。

五味理事は令和に改元された直後に赴任され、ふるさと納税の企画や回遊型観光ルートの整備などを通じ税収の飛躍的増加に貢献頂くとともに、コロナ後は中央とのパイプを活かし対策を一手に担ってくれました。

村田理事は、総務省という地方に最も縁の深い役所のキャリア官僚として、地方自治はもちろんICT戦略や行政評価など豊富な行政経験と情報、人脈を駆使し、本市の発展に多大なる貢献を頂けると確信しています。

いずれも30代40代で、民間企業社員や公務員として経験を積んできた即戦力であり、世の為人の為、市の為市民の為にさらに働く組織に向け、フレッシュな人材が新たな風を吹き込んでくれることを期待しています。



五味俊太郎さん(左から2人目)



辞令交付式の様子



村田誠英総務部経営企画担当理事

人権尊重のまちづくりの推進 同和問題啓発強調月間市民講演会の開催

7月10日(土)、プラム・カルコア太宰府市民ホールで、小西幸恵さんこにしゆきえを講師に迎え、「人権が大切にされる社会をめざして」と題して、同和問題啓発強調月間市民講演会を開催しました。

講演の中では、2016年に「部落差別の解消の推進に関する法律」、2020年に「太宰府市部落差別の解消の推進に関する条例」が制定されたことに触れ、「情報化の進展、インターネットの普及に伴い、差別の形態が変わってきていること」が法令制定の背景にあることを説明され、「人の脳はいったん思い込むとなかなか排除できない。インターネット上の情報がすべて正しいわけではないので、先入観や思い込みではなく、正しい知識を持って行動してほしい」と話されました。



講演会の様子

まちのトピックス

市民アスリートの活躍 道下美里選手みちした みさとの東京2020パラリンピック激励会が行われました

東京2020パラリンピックに出場予定の道下美里選手みちした みさと(太宰府市在住)の激励会が、とびうめアリーナで行われました。会場には、市内学校・団体から心のこもった応援メッセージが寄せられ会場の壁などを彩りました。また、本会を主催する太宰府ロータリークラブをはじめ、日頃から道下選手を支えるサポーターや地域の子どもたちなど、多くの人からビデオレターなどで激励の言葉が伝えられました。こうした声に、道下選手は感謝の気持ちを述べ、改めて出場に向けた意気込みを語りました。

世界記録を持ち、ひた向きに努力をつづける道下選手が、力を存分に発揮できるようエールを送る激励会となりました。



子どもたちなどから寄せられたメッセージと
左から道下選手、楠田市長

市民の活躍 福岡県人権擁護委員連合会長表彰を受けました

本市の人権擁護委員である宮原勝美さんみやはらかつみと松下俊彦さんまつしたとしひこが、5月21日に開催された福岡県人権擁護委員連合会総会で表彰されました。

長年その職にあり、地域における人権尊重思想の普及高揚のため、地域住民からの人権相談や人権啓発などに献身的な活動を行い、職務上の功績が顕著であると認められたため、今回の表彰を受けることになりました。



左から松下俊彦委員、宮原勝美委員

地域行事 太宰府天満宮御田植祭お た う え さ い

6月12日(土)に観世音寺の太宰府天満宮齋田にて、初夏の神事「御田植祭」が行われました。赤ふんどしの若者と着ぐるみの牛がユーモラスに「代かき」を熱演した後、西高辻宮司にしただかつらや楠田市長も参加して早乙女姿の女性たちとともに苗を植え、風水害や害虫から逃れ無事収穫できるよう祈願しました。



苗植えの様子